

And then there's intellectual freedom

それから、思想の自由がありますね。

And then... それから...

□ジック

日本語の「それから」と同じように、時系列として「そのあとで」という意味にも使えらると同時に、ここのように、「もうひとつ」という意味でも使われます。そのため、「First (1点目)、Second (2点目) ...」と話を進めるときに、数字の代わりにこの表現が使われることがよくあります。

intellectual freedom 思想の自由、知的自由

制限無く、あらゆる立場、あらゆる角度からの情報を求め、かつ、得ることのできる自由のことを言います。すなわち、あらゆる思想についての表現とアクセスの自由を意味し、それにより、あらゆる問題について、あらゆる角度から検討する思想の自由が生じることを言います。

because as you know, we can talk very freely in this country of how we feel about most anything.

And even our Internet conversations are not monitored as they are in some countries.

というのも、ご存知の通り、この国ではほとんど何についても自分の感じ方について自由に話せますから。インターネットでのやりとりですら、他の一部の国でのようにモニターしたりされていませんからね。

how we feel 自分たちの感じ方

□パターン表現

[ how S + V ] の名詞のかたまりです。直訳的には、「私たちがいかに感じるか、その感じ方」ということですから、意味としては「(自分たちの) 感じ方」のようになります。[ how S + V ] のかたちで非常によく使われますから、一単語感覚でとらえられるように慣れておきましょう。

internet conversations インターネットを通じてのやり取り

Eメール、チャット、掲示板など、インターネットを通じたやり取りのことを指します。

most anything ほとんど何でも、たいていのもの

直訳的には「most ほとんどの + anything なんでも」ですから、「ほとんど何でも」「たいていのもの」といった感じになります。

So, there is a great potential for intellectual stimulation, for what's the word I want? the benefit that comes from sharing and exchanging ideas freely.

ですから、知的刺激の面で非常に大きな可能性がある。つまり、うまく言葉が浮かびませんが、意見を自由に共有してやりとりすることからくるプラスという面で、非常に大きな可能性を持っているんですね。

So, there is a great potential ... ですから、大きな可能性があるんです

□やまと言葉

「今はそうないなくても、そうなる可能性を持っている」というのが potential のコアの意味です。

□ジック

potential は上述の通り、「何かの持っている『可能性』」を言うわけですから、話のなかで「プラスの可能性 = 利点」「マイナスの可能性 = マイナス点」を主張するときによく登場します。聞き取りの際は、there is a great potential for ... 「...について大きな可能性があるんですよ」と聞こえてきた時点で、「あ、利点がマイナス点を訴えてくるぞ...」としっかり意識して聞きます。

intellectual stimulation 知的刺激

□やまと言葉

知識や洞察の面で新たな発見や学びを得られたり、何か新しいアイデアや考えなどが浮かんだりするような刺激のことを意味します。

the benefit that comes from... ...からくるプラス

□やまと言葉

benefit は辞書で「恩恵、利益」の訳語で説明されていますが、コアの意味は「プラス、いいもの」です。

そこから、「利益、恩恵」などの意味になり、さらに会社のコンテキストだと「社員の「プラス」になるもの」ということで「(福利厚生などの) 給付金、手当」を指して使われることもあります。

パターン表現

the benefit that comes from ... で「名詞 + 修飾節！」のつくりですね。the benefit 「プラス」とシンプルな名詞で置いておいて、後ろから修飾節で「どういうプラスなのか」を詳しく説明してくれるかたちです。「何から得られるプラスなのか」を that comes from... で説明してくれるという、このかたちで非常によく使われますから、the benefit that comes from ... で、セットで慣れておきましょう。

Yes, we often disagree with one another, and we certainly have people who are demonstrating right now, who are not happy,

そう、もちろん、しょっちゅう意見がぶつかります。確かに現在もデモをしている、不満を抱えている人たちがいます。

Yes, ... もちろん (...ということもあります)、たしかに (...ということもあります)

ロジック

「アメリカをまとめているものとして、思想の自由もある」というのがメインポイントで、それに対して because... で「理由」の説明、その次に So there is a great potential ... 以下で「利点」をアピールする内容が続きました。<基本形>のかたちで終わるのかなと思うと、Yes... ときたわけですが、ここで「Yes」を『旗印』にして、<挿入>が入るかもしれないぞ... と聞ければしめたものです。案の定、メインポイント(論旨)と逆の内容(人々が分裂している側面)が続きました。

ちなみに、このように、<挿入>が冒頭のメインポイントの直後にくるのではなく、最後にメインポイントを述べて話をまとめる直前に入ってくる話の流れもよくあります。

certainly... もちろん (...ということもあります)、たしかに (...ということもあります)

ロジック

上述の Yes と同じように、挿入の『旗印』としてよく使われる表現です。ここは、Yes... 以下前の文で、逆の側面を言う<挿入>部分を行っていますから、and we **certainly**... と来た時点で、「よしよし、まだ<挿入>が続いているんだな...」と落ち着いて聞き進めばいいわけです。

to demonstrate... デモをする

やまと言葉

demonstrate のコアの意味は「相手が見てわかるようなかたちで示す」です。名詞形の demonstration を短縮した、「デモ(抗議行動・恣意行動)」もここからきています。英語でも短縮形 demo を使いますが、この場合は、機械や何かのシステムを「実際に動かして見せる実演」の意味で、これもこのコアからきているのが分かります。

to be happy... 満足している

やまと言葉

who are not happy を「不幸せな人」と理解すると、この話のコンテキストだとなんとなくしっくりきません。happy は、もっと広く、何かに対して「これはいい、と感じている状態、満足している状態」という意味で使われます。ここは who are not happy で、「(とにかく何か現状に)不満を持っている人」と理解するとすっきりと理解できます。

We are very happy with the agreement. (私たちはその合意にとっても満足しています)

Mr. Smith is not very happy with how the project is going.

(Smith さんは、プロジェクトの進捗にご不満のようだ)

we have people who are ... ...な人がいます

パターン構文

have は「持つ」という「所有」の意味よりもっと広い意味で、「いる」、「ある」のような意味でも使われます。この have を使ったよくある言い方が「have + 名詞 + ある状態」のかたちです。「have + 名詞」(名詞がいます、あります)とまず言うておいて、その「名詞」が「どういう状態」なのかを後ろからゆっくり説明すればよい、非常に便利なかたちです。「どういう状態」かは、いろいろなかたちでくることが可能で、下記のようなものがあり得ます。

Have + V ~ する (純粋にその動詞の動き)

+ -ed ~ された (受身の感覚)

+ -ing ~ している (進行形の感覚)

+ who/ which ~ のような (状態を「文」で描く)

それについては山田にお電話させます。I will have Yamada call you about that.

これ、コピーしとかないと。We need to have this copied.

車をホテルの前で待たせときます。 **We'll have a car waiting** for you in front of the Hotel.  
土曜に会社できる人、いますか。 **Do we have anyone who can come in** on Saturday?

we have people... だと、「人がいます」と漠然と言っただけですから、聞き取りでは「どういう人なのかを後ろから説明してくれるかもしれないぞ」という覚悟を持って、「うん、どんな人？」と後ろを待つ感覚を持ちましょう。

but that to me ... that is what holds America together.

でも、私としては、それがアメリカをひとつにまとめているものだと思います。

But... でも (やはり) ...

**ロジック** Yes, ...以下の<挿入>で、「思想の自由」が持つ逆の側面(意見の衝突など)にも気づいていることを述べた後、but で本論に戻りました。

that ...

**パターン構文** that で前に述べた内容を指して「で、それが...」のよういいう言い方は非常によくされます。聞き取りでは、that が何を指しているのかをしっかりと押さえて聞ける感覚を目指しましょう。ここでは、言うまでもなく「思想の自由」ですね。

what holds America together アメリカをひとつにまとめているもの

**慣用表現** to hold で「持って、その状態を保ったり、支えたりしている」ことを言います。together は、「ばらばらではなく、一体でまとまった状態」です。合わせて、to hold something together で「ひとつにまとめられている、保持されている状態」を言います。

**パターン表現** [ what + V ] で what が主語の名詞のかたまりです。[ what + V ] で「～するもの」と名詞一単語の感覚でとらえられるように馴染んでおきましょう。